

多摩市立連光寺小学校

東京都

 まつだ かずえ
 発表者：松田一枝 教諭・研究主任

持続可能な未来をつくる力を育む

新たなつながりを生み出す地域での学び



豊かな自然に恵まれた地域の「自然・人・社会」を活かした学習活動で育成を目指すのは、「かかわる・課題を持つ・課題を追究する・表現する・自分を見つける」という5つの力。児童たちは、学年ごとにさまざまな体験を通じて地域と繰り返し関わっていきます。持続可能な未来をつくることを見据えたこれらの教育活動が、地域との新たなつながりを生み出します。

目的

- 6年間の学習プログラムを通じて、地域への関心や愛着、その一員としての自覚を育てる
- よりよい社会の実現を目指す想いを育み、人と関わりながら問題を解決する力を身につける

活動内容

多摩川や都立桜ヶ丘公園など、近隣の豊かな自然環境を活かした体験教育活動に10年以上取り組んでいます。児童たちは発達段階に応じた各学年の目標に沿って、地元の人たちと交流したり、その自然に触れたりしながら少しずつ考える力を身に付けていきます。


 連光寺SATOYAMA
 プロジェクト

各学年の取り組み

- 1・2年生** 身近な人や自然に繰り返しかかわり・関心を持つ
 - ・園児との交流 ・高齢者の方との交流 ・公園の自然とかかわる
- 3年生** 地域の人々と関わり、学ぶ
 - ・保育園、児童館、図書館、地元商店等とかかわり、自分のできることを考えて、行動する。
- 4・5年生** 地域の特徴ある自然に学ぶ
 - ・多摩川や里山について自分なりのテーマを設定し、調べる。
 - ・生物多様性や生態系を学ぶ ・人間と自然の「共生」について考える
- 6年生** 地域を通して社会を学び、考える
 - ・地域の歴史を調べる ・社会保障の視点で地域を見つめ直す
 - ・社会の「共生」について考える



◀連光寺の歴史探偵

 ▼川は自然の宝箱
 ～わたしたちと多摩川～


活動のポイント

「育ちの地図」で児童の育つ姿を明確にイメージ

連光寺小学校では、「育てたい5つの力」を設定している他、2年前よりESDの視点を取り入れ、6年間の教育の先にある児童たちの将来の姿を意識した「育ちの地図」を作成しています。それは学習活動を計画・実践するうえでの指針となっており、地域社会の持続可能な未来を視野に入れた取り組みにつながっています。


 トライ！トライ！わたしたち
 にできること

 おじいさんおばさんとなかよ
 くしよう

学校情報

多摩市立連光寺小学校

学校長 阿閉 暢子

所在地 〒206-0021 東京都多摩市連光寺3-64-1

TEL 042-373-1920 FAX 042-337-7628

E-MAIL renkouji@educet01.plala.or.jp

稲城市立稲城第二小学校

東京都

 発表者：^{すずき ちづ}鈴木千津 教諭・研究主任

稲城坂浜プロジェクト

地域とのつながりのなかで紡ぐ学び

地域との連携



稲城第二小学校では、「2050年の未来を支える大人へ」という具体的な未来のイメージをもとに取り組みを行っています。地域とも連携を深めており、稲作への全校を上げての参加は38年間にも及ぶ代表的な教育活動となっています。児童、教員と一緒に外へ出ていくだけでなく、相談役である地域コーディネーターや学校PTAも巻き込むことで地域社会全体での取り組みへと発展させています。

目的

- 持続可能な社会づくり、2050年の大人づくり・市民づくり
- 地域から学び、地域に働きかけ、地域を活性化させる

活動内容

稲作への参加の他、生活科や総合的な学習の時間を中心とした様々な教科の中で地域の自然や人、歴史や産業に触れる機会を設けています。また近隣の上谷戸親水公園を題材に、公園作りの企画運営に携わった人や支えている人と出会ったり、塞の神という伝統行事について学んだり、地元・坂浜を取り巻くさまざまな社会や文化、環境について理解を深めることで、地域の未来を描ききっかけへとつなげています。



全校稲作活動の事例から

- 1・2年生 塩水選／籾まき（米づくり名人から技を学ぼう）
田植えの前の苗とり
- 4・5年生 昔ながらのやり方で田植えを体験
- 6年生 鎌で一株一株稲刈り、稲を干す
- 3年生 千歯こき／脱穀（昔の道具と今の道具を比較）
- 2・4年生 収穫したお米で餅つき・餅丸め



活動のポイント

稲作活動を通して学ぶ「感謝の気持ち」の大切さ

長年にわたって実施されている稲作活動では、米作りのすべての工程を6年間かけて経験。田植えの準備から収穫、餅つきまで体験した全校児童が集まって毎年行われる最後の収穫祭では、一年間の活動の中で支えてもらった地域の方々を学校に招き、完成したお餅をふるまうことで感謝の気持ちを伝えます。人との関わりで大切なことを学ぶうえで貴重な場となっています。



学校情報

稲城市立稲城第二小学校

学校長 ■ 松坂 章二

所在地 ■ 〒206-0822 東京都稲城市坂浜590

TEL ■ 042-331-5709 FAX ■ 042-331-8421

E-MAIL ■ ina2show@educet03.plala.or.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

名古屋市立有松小学校

愛知県

 すぎうらよしひろ
 発表者：杉浦好弘 教諭・教務主任

有松をみつめよう

地域を愛し、ともに生きる有松っ子の育成

地域との連携



有松学区は、江戸時代から宿場町として、また「絞り」の特産地として栄えた400年の歴史を持つ地域です。児童たちは郷土の歴史や伝統工芸について学び、体験学習を重ねることで地域との関わりを深めてきました。近年においては、ESDを「暮らす」という観点から捉えた取り組みが行われており、自分たちが住む町の文化やつながりについて学んでいます。

目的

- 「暮らす」という観点に基づいた活動を通じ、町の文化や人とのつながりを更に深めていく

活動内容

近年の取り組みは、それぞれ「伝統的な産業に触れる」「旧東海道の古い町並みに触れる」「郷土に伝わる文化に触れる」「行事等に関連づける」という4つのテーマに基づいて行われています。これらの活動を通じ、地域に密着した系統的な学習がより深められています。



4つの活動

伝統的な産業に触れる

- ・有松絞りの施設を見学
- ・絞りや染め遊びの体験（オリジナルTシャツづくりなど）

旧東海道の古い町並みに触れる

- ・江戸時代から残る貴重な建物について学ぶ
- ・町探検

郷土に伝わる文化に触れる

- ・まつりや学区に残る山車、おはやしについて学ぶ
- ・まつり、おはやしへの参加

行事等に関連づける

- ・学芸会や運動会等の学校行事で、活動の成果を発表・披露



活動のポイント

400年の歴史を誇る地区の特性を活かした活動

有松は「絞りの里」としてたいへん古い歴史を持ち、伝統工芸が現在でも受け継がれています。名古屋市内でも珍しいなまこ壁やうだつが上がる江戸時代の古い建築が残っており、「町並み保存地区」に指定されています。有松小学校ではこの歴史ある地域特性を活かした学習活動が行われ、児童たちは地域と共に生きることを学んでいるのです。

学 校 情 報

名古屋市立有松小学校

学校長 ■ 川本 哲也

所在地 ■ 〒458-0924 愛知県名古屋市緑区有松2803

TEL ■ 052-621-1071 FAX ■ 052-622-6652

E-MAIL ■ arimatsu-e@nagoya-c.ed.jp

留寿都村立留寿都小学校

北海道

 わたらいともひろ
 発表者：渡曾 朋広 教頭

るすつながら

持続可能な人づくり、むらづくり



留寿都村は人口2000人に満たない小さな村。そのため、持続可能な地域社会をつくることは身近な課題のひとつです。留寿都小学校では、農業・食を中心として、隣接の中・高校、コーディネーター、地域の人々が協力し合った学習活動を実施しています。これらの活動によって児童たちのふるさとへの関心を高め、地域の将来を担う人づくりを行うことが、未来のむらづくりにつながっていきます。

目的

- 地域の中で体験から学び、生活や文化を世代から世代へ継承していく
- ふるさとへの興味・関心を高め、未来のむらづくりにつながる基盤をつくる

活動内容

村の学校は小中高それぞれ1校ずつですが、隣接しているため連携した教育活動が行われています。特に農業に関する活動は、留寿都高等学校農業科とのこまめな打合せと、地域の人々や地元JA等のボランティアによる熱心な支援を得て大変充実しています。これらの活動を通し、小学生は自然の豊かさや農業・食への理解・関心を深めています。



スケジュール

5月 農業科の高校生の指導により、学校の花壇へ花植え

6月 高校の畑を借りて、大豆やとうもろこしを植える

9月 作物の収穫を手伝う
 収穫した作物を、地域のボランティアと共に調理加工体験
 昔ながらの方法や道具で大豆から豆腐やきなこをつくる



活動のポイント

明確な課題があるから、未来へ向けた進歩になる

教育活動を実施していく中で、小規模な村ならではの課題も生じています。地域社会の想いと学校側・児童たちの想いが必ずしもイコールにはならないこと、人事異動による継続した取り組みへの影響等。しかしこれらの課題を明確にして地域全体で取り組んでいく姿勢こそが、持続可能な社会を実現するための基盤となっていきます。



学 校 情 報

留寿都村立留寿都小学校

学校長 ■ 梶野 祐樹

所在地 ■ 〒048-1731 北海道虻田郡留寿都村字留寿郡174

TEL ■ 0136-46-3008 FAX ■ 0136-46-2478

E-MAIL ■ res-info@rusutsu-c.ed.jp

多摩市立多摩第一小学校

東京都

 たなはしかん
 発作者：棚橋乾 校長

ESDで育む学力

総合的な学習の時間における問題解決学習の充実



ESDによって身に付ける学力とは何か。多摩第一小学校では、ESDを指導するうえで指針となる学力の4つの柱を設定し、教育活動を行っています。これまで総合的な学習の時間や通常の教科学習の中で取り組んできた、基礎的・基本的な学力の定着に加え、探求的な活動や問題解決型の学習指導によって、これからの時代を「生きる力」の育成を図っています。

目的

- 現代社会のさまざまな問題に取り組む意欲と能力をもった人材の育成
- 自ら課題を見つけ、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成

活動内容

基本的な知識・技能の「習得」からはじまり、それらをもとに考えをまとめて発表する「活用」、さらに問題解決的な学習や「探求」活動へと発展させる学習方法を実施しています。



多摩第一小学校におけるESD教育の4つの柱

1. 多面的・総合的に考える力（表現力、クリティカルシンキングを含む）
2. 未来志向の思考力・計画力
3. コミュニケーション能力・合意形成力・協力する態度
4. 意欲的な参加態度

これらは、生きる力の「…よりよく問題を解決する資質や能力」であり、OECDにおける「キー・コンピテンシー」とも一致した内容となっています。



活動のポイント 「ゴーヤプロジェクト」を通じた問題解決型学習

取り組み事例のひとつとして、4年生が「ゴーヤプロジェクト」を行いました。これは、ゴーヤの苗を市民に配布しグリーンカーテンを推奨することで、地球環境を守ることや、東日本大震災の被災地支援に役立てることへとつなげたプロジェクトです。児童たち自らが積極的に関わり、工夫して課題解決を図り、協力しながら取り組むことができました。



学校情報

多摩市立多摩第一小学校

学校長 ■ 棚橋 乾

所在地 ■ 〒206-0011 東京都多摩市関戸3-2-23

TEL ■ 042-375-7020 FAX ■ 042-337-7621

E-MAIL ■ _____

伊豆市教育委員会

静岡県

おおつか あきら
 発表者：大塚 明 学校教育課指導主事
 (前天城中学校校長)

ESDで自尊感情を高める学びを

生徒の心に自信と誇りを生み出し「生きる力」を育む



伊豆市立天城中学校では、これまで学校・保護者・地域の連携を基に、信頼に応える学校づくりを推進してきました。その中で課題となっていたのが、生徒たちの「自尊感情」。ESDを通じ、自分たちが暮らす身近な地域の自然や文化、歴史への理解を深め、地域の未来について自ら学び、考え、行動していくことで、生徒たちの自信や誇りにつなげ、「生きる力」を育てていきます。

目的

- 自分たちの暮らす地域を「持続可能な社会」に変えていく
- 生徒たちの自尊感情を高め、自ら学び、考え、行動できる「生きる力」を養う

活動内容

「さまざまな つながり」をキーワードに総合的な学習の時間をESDの視点で組み直し、地域での体験活動と地域の人とのつながりに重点を置き、福祉体験学習や自然体験学習・職場体験学習を実施しました。地域の自然や文化・歴史・産業等についての学習を通じ、地域の現状や地域の抱える課題への理解が深まりました。



各学年の取り組み

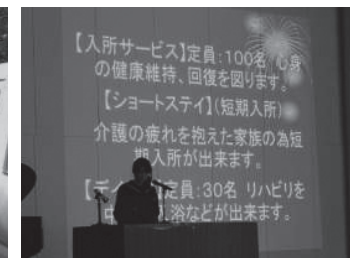
- 1年生** 福祉体験学習…テイサービス、介護老人保健施設等へ
自然体験学習1(八丁池登山)…天城の自然のすばらしさを知る
- 2年生** 自然体験学習2(天城縦走)…天城の自然が抱える課題を知る
職場体験学習…地域を支える仕事について体験を通して学ぶ
- 3年生** 修学旅行…京都・奈良をモデル都市として、10年後の天城を考える
地域学習…自ら考えた課題について地域に学び、地域の持続発展のための提言を考える
- 全学年** 総合発表会…各学年の学習成果(3年生は提言発表)



活動のポイント

Think Globally Act Locally

ESDカレンダーの作成により、各教科・道徳・特活と総合的な学習との横断的な関わりも重視し、自ら学び・考え・行動する「生きる力」をはぐくみました。地球規模の課題と地域社会の問題のつながりを理解して、地域社会の人々と共に、持続可能な天城の未来を模索しました。



学 校 情 報

伊豆市教育委員会 学校教育課

学校長

所在地 〒410-2592 静岡県伊豆市八幡500-1

TEL 0558-83-5472 FAX 0558-83-5498

E-MAIL kyouiku@city.izu.shizuoka.jp

気仙沼市立大谷小学校

宮城県

 すがわらひろのり
 発表者：菅原弘倫 教諭・防災担当主幹

「大谷ハチドリ計画」の実践を通して

小・中連携を基にした地域における環境教育の推進



海・山・川の豊かな自然に恵まれた気仙沼市。大谷小学校では、隣接する中学校をはじめとして関連機関・施設とも連携し、交流活動や環境教育に力を入れてきました。中でも、環境教育の一環である「大谷ハチドリ計画」では、地元地域の自然環境に関する現状の課題についての理解を深め、調査・探求するという過程を繰り返すことで課題解決力を養っています。

目的

- 地域の自然、伝統文化、福祉、産業を総合的に捉え、興味・関心を引き出す
- 現代社会、地域の諸問題・課題に気づき、未来に向けた解決策を考える力を養う

活動内容

地域の自然環境を学ぶために、地域コーディネーターをはじめとした専門家の協力を得て特別授業を実施。また、大谷中学校ではじまった「大谷ハチドリ計画」の一環とし、小学校でも地域学習として取り組みを実施。地元の関係機関とも連携しながら、地域ぐるみで環境学習を行ってきました。

総合的な学習の時間に位置付けた取り組み

- 3年生** 震災前は、地元の涌根川での水生生物の観察や漁業協働組合、養殖組合の協力によるワカメの種はさみ体験に取り組んできましたが、震災後は、地域の野菜づくり名人から、ナス、キュウリ、トマトの苗作りから収穫までのプロセスを継続的に教わり体験することで、栽培農業の工夫等をまとめる学習を進めてきました。
- 4年生** 東日本大震災時に水の運搬や節約、節制などの体験から、「自分たちができるエコプロジェクト」をテーマに、エコ活動について自分たちができることは何かを考え、計画・実践してきました。
- 5年生** ふゆみずたんぼをテーマに、米づくり体験や水生生物、渡り鳥の観察等を通じた環境学習に取り組んでいます。学習のまとめでは、中学校3年生との合同学習で、ふゆみずたんぼの学習を通して、後輩に伝えたいことは何かについて意見を出し合う学習をしました。
- 6年生** 「大谷の木と水」をテーマに、宮城県農林振興事務所の職員から、松枯れの現状について学んだり、地域の川の水質調査や水資源を活用する小水力発電など、中学校との合同学習を行いました。



津波到達予想地図作成の様子

活動のポイント

東日本大震災を受け、防災教育が急務に

気仙沼市は、東日本大震災において津波による甚大な被害を受けました。地域の自然環境は大きく変貌し、地域学習のカリキュラムは大幅な見直しを迫られ、防災に関する教育の実施が急務となりました。5年生の「防災リーフレットをつくろう」では、自然災害の脅威を前に人間の能力や科学の力には限界があることを踏まえ、自分の命、地域全体の人々の命をどのように守るか、思考・判断する力を身につけさせるとともに、未来に夢や希望をもって新たなまちづくりをテーマに学習を進めてきました。今後は、発達段階を踏まえ、小中9年間で系統的、体系的な防災教育を進め、地域の将来を担う子供をはぐくみたいと考えます。

学校情報

気仙沼市立大谷小学校

学校長	■ 畠山 雅宏
所在地	■ 〒988-0273 宮城県気仙沼市本吉町三島28
TEL	■ 0226-44-2202
E-MAIL	■ ohya-sho@motoyoshi.ed.jp

岡山市立第三藤田小学校

岡山県

おの みちこ
発表者：小野道子 教諭

「つながり 感じ 高める子」の育成を目指して

人や社会、自然とのつながりに気づき、かかわり方を見つめ直す



中学校区の小中学校と協働で、「つながり 感じ 高める子」という子ども像を目指しており、本校では「つながる」「かかわる」という2つのキーワードを設定しています。「つながる」とは、人・もの・ことに視点を置いて社会や自然を尊重する態度であり、「かかわる」とは、自分とのかかわりと他者とのかかわりの2つを指します。これらの考え方をもとに、低・中・高学年ごとに育みたい力を設定して活動を実施しています。

目的

- 児童たちが、人・もの・ことのかかわりの中で情報を得たり発信しながら成長していく
- 自分の生活とさまざまなものとの深いつながりに気づき、自分の生き方を見つめ直す

活動内容

生活科や総合的な学習の時間を中心に、学年ごとに育みたい力を設定しました。さらにESDの視点から、学習指導で重視する能力や態度についても検討を加え、単元構想やESDカレンダーを作成して授業や活動を行っています。



各学年の取り組み

- 3年生** レンコンのひみつをさぐるう
藤田のレンコンづくり農家を見学
- 4年生** 人にやさしい町づくり大作戦
「ゴミって何？」というテーマから環境について考える
- 5年生** プロジェクト八十八
20年後の藤田の米作りについての提案書をつくる
- 6年生** 幸せって何？
世界の様々な国と人のつながりについて考える



←収穫祭



活動のポイント

地域の方の協力を得て、充実した活動へ

第三藤田小学校は岡山市南部、明治に干拓された児島湾の開拓地に広がる田園地帯に位置しています。全校139人という小さな学校ですが、近隣の学校や公民館、岡山大学他、地域の協力を得て充実した体験活動を授業に取り入れています。特に農業体験では地元農家の方の協力が不可欠です。

学 校 情 報

岡山市立第三藤田小学校

学校長 ■ 矢吹 憲策

所在地 ■ 〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田1757

TEL ■ 086-296-2479 FAX ■ 086-296-5243

E-MAIL ■ fujita3s@city-okayama.ed.jp

多摩市立東愛宕中学校

東京都

 おおつかたけふみ
 発表者：大塚雄史 教諭・研究主任

Japan Art Mileで学ぶコミュニケーション力 壁画制作プロジェクトへの参加を通じた国際交流

学校間交流



多摩市の研究奨励校としてESDへの取り組みを行っている東愛宕中学校では、「校外との連携」の一環としてJapan Art Mileの国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加しています。このプロジェクトはインターネットを活用して海外の学校と協働して行う活動であり、生徒は壁画の共同制作を通じてコミュニケーション力や他者と協力する際の態度等を身に付けます。

目的

- 自分の意見を発信する姿勢や他者と協働する力を身に付ける
- 国際交流を通じ、異文化理解・自国文化への理解を深める

活動内容

2011年度には美術を選択している2年生十数名の生徒がアゼルバイジャン、2012年度には、美術部の1年生5名がキルギス共和国の学生と協働し、それぞれ壁画制作に取り組みました。生徒たちは電子フォーラムやSkypeによるTV会議を利用して、生徒同士の自己紹介からはじまり、壁画のテーマや構図、描き方等について話し合いながら、相手国の生徒たちと共に1枚の壁画を完成させます。



壁画作成の様子

スケジュール

- 6月 共同制作の交流先決定
- 7月 導入 自己紹介、調べ学習
- 8月 教員同士の交流（夏休み中）
- 9月 専用フォーラム、Skypeによる交流
- 10月 テーマの決定、構図の提案
- 11月 壁画の制作



完成した壁画

活動のポイント

ESDの5つの実践

東愛宕中学校では、豊かな人間性を育てる持続発展教育（ESD）の実践として、「かかわり」をテーマに「ボランティア活動（地域行事への参加）」、「職業体験（給金以外の価値観、企業の社会貢献）」、「校庭の芝生化の活用」、「グリーンカーテンと地域とのかかわり」、「学校外との関わり」の5つの柱に取り組んでいます。

学校情報

多摩市立東愛宕中学校

学校長 ■ 富田 広

所在地 ■ 〒206-0041 東京都多摩市愛宕 1-52

TEL ■ 042-374-9781 FAX ■ 042-337-7648

E-MAIL ■ higashiatagochu@educet01.plala.or.jp

多摩市立豊ヶ丘小学校

東京都

しばさきひろし
 発表者：柴崎 裕 教諭・研究主任

きぼうのプロジェクト



東日本大震災の復興に関する活動から生まれた交流の場

2011年3月11日の東日本大震災を受け、豊ヶ丘小学校では児童たちが「希望の手ってどんな手？」というテーマの写真を作品として撮影しました。この活動が岩手県大船渡市立第一中学校にも波及し、同じテーマで美術部の生徒が作品を制作。最終的には巡回展覧会となって国内5か所で開催され、のべ3万人が来場しました。展覧会を通じてメッセージのやり取りなどの交流も生まれました。

目的

●図画工作科を通して児童の交流活動、授業を支援する

活動内容

展覧会に出品されたのは、全て被災後半年以内につくられた「震災」をテーマとした児童・生徒たちの個人作品です。2011年9月に東京・青山での展示会開催を皮切りに、岩手県、青森県、東京都多摩市、長野県、計5か所で作品が展示されました。来年度も、アメリカでの展示会、スペインでの巡回展などが予定されており、この活動は世界へもひろがりをみせています。

スケジュール

- 2011年6月 写真撮影の授業実施、作品の制作
- 2011年8月 岩手県大船渡市立第一中学校でのコラボ授業
- 2011年9月～2012年6月 日本国内5か所で巡回展を実施
- 2013年3月 フランスリヨン市にてリヨン東日本再生ビジョン展
- 2013年4月 アメリカニューヨーク市国連国際学校にて春の学園祭
東日本大震災関係展示会
- 2013年6月～2014年7月 スペイン各都市巡回
スペイン・日本友好400年記念 東日本再生ビジョン展



活動のポイント

入場者から寄せられたメッセージ、生まれた暖かな交流

震災後、復興への希望を託して制作された児童の作品に、展示会を訪れた人々からたくさんのメッセージが寄せられました。児童たちは作品制作・展示会を通じて想いを伝えることを実感として学ぶとともに、メッセージに対して返信の手紙を書くなど、新たな交流の場も創出されました。

学校情報

多摩市立豊ヶ丘小学校

学校長 ■ 小林 佳世

所在地 ■ 〒206-0031 東京都多摩市豊ヶ丘2-4-1

TEL ■ 042-371-3341 FAX ■ 042-337-7640

E-MAIL ■ _____

金沢市立味噌蔵町小学校

石川県

 しんたにたかはる
 発表者：新谷貴晴 教諭

加賀藩祖前田利家がつないだ絆

学校間交流



1通の手紙をきっかけに26年間続く姉妹校との交流

味噌蔵町小学校の校区は兼六園、金沢城公園を含む、金沢の伝統文化が現在でも色濃く残る地域です。児童たちは四季折々の自然や、加賀友禅に代表される伝統工芸について学びます。その歴史や文化の学びを通して、姉妹校の名古屋市立荒子小学校と長年に渡って交流を続けています。1通の手紙という小さなきっかけが生んだこの交流が、学びを「発信する」活動としても大きな役割を果たしています。

目的

- 他校との交流を通して、地域間のつながりを学び、人と人との絆を実感する
- 総合的な学習で学んだ地域の歴史や文化を、発信することで地域のよさを学ぶ

活動内容

1986年からはじまった荒子小学校との交流。2001年以降、荒子小学校の児童が修学旅行で毎年金沢を訪れるなど親睦を深めています。児童たちはこの機会を「発信活動」として、日頃学んでいる金沢についての歴史や文化を冊子にまとめて紹介したり、伝統の加賀宝生を披露したり、兼六園等の名所を案内するなどさまざまなことに取り組んでいます。



兼六園案内

交流の内容

伝統「加賀宝生」披露

総合的な学習の時間に学んできた「鶴亀」を披露

「前田利家音頭」を覚えてもらう

教わった踊りは後に運動会で披露

地域に伝わる「めった汁」をふるまう

市内名所案内

尾山神社、兼六園、金沢城公園を案内



◀荒子音頭紹介

尾山神社案内▼



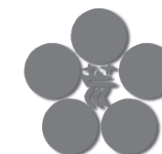
活動のポイント

戦国時代の武将、前田利家をきっかけに生まれた交流

そもそも2つの学校の間で交流が生まれたきっかけは、ある一通の手紙でした。実は、名古屋市荒子は戦国時代に金沢を統治していた加賀藩主・前田利家の生誕の地。1986年、それを知った荒子小学校の女子児童が当時の味噌蔵町小学校校長に手紙を出したのです。歴史が、遠く離れたこの2校を結びつけました。ちなみに2校の校章は、共に前田家の家紋である「梅鉢紋」のモチーフです。



味噌蔵町小学校校章



荒子小学校校章

学校情報

金沢市立味噌蔵町小学校

学校長 ■ 藤森 とも子

所在地 ■ 〒920-0931 石川県金沢市兼六元町7-15

TEL ■ 076-231-7279 FAX ■ 076-232-0515

E-MAIL ■ misogura-e@kanazawa-city.ed.jp

奈良教育大学附属中学校

奈良県

 たにくちなおゆき
 発表者：谷口尚之 主幹教諭

奈良ASPネットワーク

学校間交流



ユネスコの理念を実現させる「地域の灯台」を目指して

全国でユネスコスクールが550校を数えるなか、各活動の「質」についての維持向上が課題となっています。2009年11月に奈良ASPネットワークを設立しましたが、その目的は、各校の主体的な活動の充実・拡大を図るとともに、ユネスコスクール本来のミッションである学校間交流を、まず身近な地域の中で実践し、たしかな「つながり」を生み出すためでした。

目的

- 各校の活動だけにとどまらず、地域内での交流・協力を深め、連携して活動を推進する
- ユネスコの理念を実現するユネスコスクール本来の使命を自覚し、日々の実践を重ねていく

活動内容

設立以来、担当者の会議を重ね、毎夏のESD子どもキャンプや教員の県外研修を実施。さらに今年度から奈良教育大学が事務局を担当し、大学生・大学院生も巻き込んで活動の充実を図っています。



2010～2011年度の活動

担当者会議の実施(1～2か月に1回)

- ・各校園の活動報告と情報交換
- ・ESD子どもキャンプ、研修に向けた打合せ

文科省の事業*による委託金の活用

- ・ESD子ども会議
- ・教員県外研修

震災支援活動

- ・気仙沼市のユネスコスクール活動再開に向けた支援

※日本/ユネスコパートナーシップ事業



活動のポイント

地域のネットワーク強化による成果

このネットワークは当初、各学校が十分な活動に取り組みていなかった状況に対する危機感から設立されました。現在では会議が定例化し、各学校へのサポート体制が定着することによって交流や情報交換の場が生まれ、地域の学校が孤立することなく活動を進められるようになりました。児童・生徒同士、教員同士もつながり合い、地域全体での活動へ発展する基盤がつけられつつあります。

学校情報

奈良教育大学附属中学校

学校長 ■ 松川 利広

所在地 ■ 〒630-8113 奈良県奈良市法蓮町 2058-2

TEL ■ 0742-26-1410 FAX ■ 0742-26-1413

E-MAIL ■ _____

多摩市立南鶴牧小学校

東京都

 よしだ まさゆき
 発表者：吉田 正行 校長

壁画の共同制作を通じた国際交流

パキスタンについて知ろう！

学校間交流



環境教育や人権教育を基盤とした活動に取り組んでいる南鶴牧小学校。その一環として、Japan Art Mileの国際交流壁画共同制作プロジェクトに参加しました。世界に目を向け、さまざまな国について学ぶところからはじまり、最終的にパキスタンの学生と協働で一枚の壁画を制作。文化背景や価値観が全く異なる同世代との交流・協働を体験しました。

目的

- 情報収集・発信力、コミュニケーション能力を高め、協働作業をする力を養う
- 自分や自国を見つめ直すとともに、異文化・価値観の異なる相手への理解を深める

活動内容

今回の協働校となったのはパキスタンの学校です。児童たちはTV会議を通し、日本の文化を紹介するためにけん玉や折り紙等の伝統的な遊びを利用したり、相手の名前を毛筆で書くなど工夫を凝らしました。交流にあたって、これまでの英語活動での成果を活かすことができました。



スケジュール

- 6～7月 世界に目を向ける いろいろな国について調べてみよう
 - ・海外赴任者の話を聞く
 - ・どんな国と交流したいか
- 9～10月 国際交流相手、テーマの決定
 - ・自己紹介ビデオの作成・発送～テレビ会議の実施
 - ・壁画の構図についての意見交換、構図の決定
- 11～12月 下絵描き 壁画半分完成・発送
- 1～3月 相手校側の壁画完成・発送
- 4月 壁画の鑑賞、活動の振り返り



活動のポイント

異なる文化に触れ「世界」への視点が開ける

活動を終えて、児童たちからは「パキスタンのことをもっと知りたい」「他の国とも交流してみたい」という声が挙がりました。遠く未知の文化であった他国との交流を通し、世界とのつながりを身近に感じることができたようです。また、「紛争のイメージがあったが、勝手に印象を決めつけないようにしたい」という新たな気づきもありました。

学校情報

多摩市立南鶴牧小学校

学校長 ■ 吉田 正行

所在地 ■ 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧5-43

TEL ■ 042-372-1860 FAX ■ 042-337-7641

E-MAIL ■ nantsuru@ttv.ne.jp

地域との連携

はぐくみたい力・学力

学校間交流

校内体制

高等学校の活動

稲城市立稲城第三中学校

東京都

 うめはら いくお
 発表者：梅原 郁雄 校長

タイ・ワタナー校との交流活動

学校間交流

日本の中学校一日体験

タイのワタナー校はバンコクを中心部にある女子校です。校内に「百人一首競技かるた」を行っている部活動があり、その活動の一環として部員数名が毎年来日し、稲城市にホームステイしています。稲城第三中学校では、2010年から「日本の中学校一日体験」として滞在中の女子生徒たちを受け入れており、生徒たちと相互の国の文化を紹介し合うなど交流活動を行っています。

目的

- 自国の文化を改めて学び紹介するとともに、相手の国の文化への理解を深める
- 異なる文化・価値観の相手とコミュニケーションについて学ぶ

活動内容

まずは英語の授業で、生徒たちが自己紹介と日本の紹介をしました。その後、家庭科の授業で一緒に調理実習を行い、茶道部の生徒によるお抹茶体験も実施。国語の授業では競技かるたの実演も披露しました。生徒たちはタイ語の予習をしてコミュニケーションを図っていました。



かるた大会の様子

一日の流れ

- 英語 互いの文化紹介、コミュニケーション
- 家庭科 調理実習（タイ風春雨サラダ）
- 給食 会食
- 国語 かるた大会・かるた作り
- 学校紹介 校長室・校内見学
- 部活動 茶道部にてお抹茶体験



◀調理実習



英語の授業▶

活動のポイント

積極的な国際交流、異校種交流の活動

稲城第三中学校では、国際交流活動だけではなく「異校種交流」にも力を入れています。近隣の保育園や幼稚園へは保育体験やボランティアへ、小学校へは入学準備冊子の制作や体験入学の準備、高校へは体験授業への参加、そして大学とは一日参観授業の受け入れ等。このような違う世代との交流も、生徒たちのコミュニケーション力を高める一助を担っています。

学 校 情 報

稲城市立稲城第三中学校

学校長 ■ 梅原 郁雄

所在地 ■ 〒206-0812 東京都稲城市矢野口3043

TEL ■ 042-377-7151 FAX ■ 042-379-3423

E-MAIL ■ inagi3j@educet.plala.or.jp

大牟田市教育委員会

福岡県

 発表者：^{こがのぶひろ}古賀信弘 指導主事

ユネスコスクールのまち大牟田



市内全校でESDを推進

大牟田市では、市内の公立小・中・特別支援学校あわせて34校が全てユネスコスクールに加盟しています。このような例は珍しく、大牟田では各校が連携して教職員の合同研修や、児童・生徒が参加する「子どもサミット」等を開催しています。このような学校間の交流を通じ、「ユネスコスクールのまち」として持続発展教育(ESD)に取り組んでいます。

目的

●学校間交流を通し、各校のユネスコスクールとしての教育活動を推進

活動内容

教職員の夏季研修会では、各校の実践報告を共有する他、講師を招き持続発展教育に関する理解を深めています。また、子どもサミットでは児童・生徒自身が発表を行います。2011年度は福祉や環境、郷土学習等の学習成果が発表されました。

スケジュール

1月 ユネスコスクール子どもサミット

- ・児童生徒相互の学習成果の発表、共有
- ・市全体の取り組みの充実
- ・保護者・市民に対して取り組み内容を広く紹介・啓発

8月 ユネスコスクール研修会

- ・教職員の共通理解の促進（ユネスコスクールおよびESDについて）
- ・ESDの学習内容の浸透



◀三池港



宮原坑▶



ユネスコスクール子どもサミットの様子

活動のポイント

広い交流によって将来的な目標も明確に

ユネスコスクール研修会は、市内の学校の教職員が実践報告を発表し合い共有する、たいへん貴重な場となっています。その成果として教育内容についての共通理解が促進されていますが、市内だけにとどまらない国内外のユネスコスクールとの交流推進や、ESD関連の教材開発、内容・方法の検討等、新たな目標も明確になりつつあります。

学 校 情 報

大牟田市教育委員会

 学校長

 所在地 〒836-8666 福岡県大牟田市有明町2丁目3番地

 TEL 0944-41-2861 FAX 0944-41-2862

 E-MAIL

東京賢治の学校自由ヴァルドルフシュール

東京都

 発表者：^{ごとうようこ}後藤洋子 教諭

3校合同古代オリンピック大会

歴史学習の発展から生まれる交流



シュタイナー学校では、歴史の授業が5年生から始まります。その中の「古代史」についての学習から発展し、他の2つのシュタイナー学校と共同で古代オリンピックを模した合同大会を3年連続で開催しています。授業で学んだ共通の知識や体験を活かしながら他校の生徒と交流を図ることで、子どもたちははじめて出会う人とのつながりや結びつき、協働について学んでいます。

目的

- はじめて出会う人と積極的にコミュニケーションを取りながら、協力し合う。
- 仲間を応援し、勝ち負けにこだわらず正々堂々と競技する。

活動内容

授業で学んだ古代ギリシアのポリスを活用し、アテネ、デルフォイ、テーベ、スパルタの4つのチームで競技を行います。各校の子どもたちが深く関わりあえるように、2度の事前練習も開催。そのため、大会当日はチームが一丸となって競技に取り組むことができます。



活動のポイント

大会をきっかけに深まる交流

普段はなかなか他校と接点をもつことがないため、合同オリンピックは交流のよい機会となっています。大会で同じチームになった子どもたちが、事前練習や競技を通じて関係性を少しずつ深めています。この大会をきっかけに、個人的な交流も始まっています。



合同オリンピック当日の内容

- ・開会式 聖火点灯（火起こし）
歌・リコーダーの演奏
詩の朗読
- ・競技 円幅跳び、円盤投げ、槍投げ、レスリング、中距離走、リレー
- ・閉会式 歌・リコーダーの演奏
一人ひとりの取り組みを表彰し、オリーブの冠を贈る
聖火消火

学校情報

東京賢治の学校自由ヴァルドルフシュール

学校代表 ■ ヴィリギリウス・フォーゲル、小山郁夫

所在地 ■ 〒190-0023 東京都立川市柴崎町6-20-37

TEL ■ 042-523-7112 FAX ■ 042-523-7113

E-MAIL ■ info@tokyokenji-steiner.jp

横浜市立永田台小学校

神奈川県

 すみたまさはる
 発表者：住田昌治 校長

輝く命を未来につなぐ教育＝ESD

持続可能な社会は「命を育み、命を輝かせることのできる社会」



永田台小学校ではカシオ計算機の若尾久氏による「命の授業」を行い、全校児童が自分の命や全ての命を大切に、自分で考え行動できるよう、心の成長を目指しています。命のすばらしさを感じ取り、多くの命はつながり支え合っていることに気づくこと。それをもとに自分で考え、行動できること。このような広い視点を養うための教育が、社会の持続可能性を引き出すサイクルへとつながっていくのです。

目的

●持続可能性を学校全体で意識的に推進する

活動内容

多角的な知識と複合的な視点からの教育を行うため、永田台小学校では企業や地域との連携、他国との交流を取り入れて常に新鮮な授業を創り出しています。学校全体でESDに取り組むため、カナダヨーク大学のチャールズ・ホプキンス教授の“ESD実践の7段階”説を参考に「学校ESD指標」を作成しました。ESDの深化には7つの段階があると考えます。ESD指標のどこの辺りにあるか自覚することで、今後どう取り組んでいけばいいのかが見えてきます。



学校ESD指標

1. 無意識 良い教育活動を行っているが持続可能性は意識されていない
2. 意識化 持続可能性を意識し、募金や清掃、祭などのイベントを中心とした活動を行っている
3. ○○教育 環境教育や国際理解教育などとESDを結びつけて実践している
4. 教科内 教科の中に持続可能性の要素を入れ込んだ授業を行っている
5. 総合的・関連的 持続可能性を教科横断的につなげた指導計画による授業を行っている
6. 学校全体 ESDのコアを定め、持続可能性を学校教育全ての場に広げている
7. 地域社会 地域と学校の課題を共通のものとしてとらえ、地域社会の課題に向き合っている



活動のポイント

ESDはチャレンジ

人をつくり、命を育むため、持続不可能性を断ち切り、持続可能な社会を実現するのがESDです。その視点で再方向付けを示しているのがユネスコのDESD国際実施計画。ユネスコスクールはESDの推進拠点であり、なにをコアとして新たな方向付けを行うか、それを決めるのは各地域と学校です。新しいことを持ち込むのではなく、新しい視点を定め、常にそれを意識し、学校全体で何をどのように行うか考え、主体的に取り組むことによって、ESDの色に染めていきます。あるべき学校や子どもの姿、あるべき社会の姿を描き、日々の取り組みを大切に、地道にESDチャレンジです。

学 校 情 報

横浜市立永田台小学校

学校長 ■ 住田 昌治

所在地 ■ 〒232-0075 神奈川県横浜市南区永田みなみ台6-1

TEL ■ 045-714-4277 FAX ■ 045-713-3631

E-MAIL ■ y3nagatd@edu.city.yokohama.jp

江東区立八名川小学校

東京都

てしまとしお
発表者：手島利夫 校長



ESDを踏まえた学校づくり

PTAや地域を巻き込みESDの仕組みをつくる

八名川小学校では、ESDを「生きる力」の育成ととらえて教育課程に明確に位置づけ、PTAや地域の関係機関と連携し、児童の学びを支えるネットワークを構築してESDに取り組んでいます。校内のみの取り組みにとどまらず、PTAへの説明会開催や地域との交流会の実施、活動内容を報告する広報紙の発行等を通し、外部との相互交流を図ることで理解・協力を得、校内の活動を活性化しています。

目的

- 保護者や地域と協力・連携しながら、ESDを推進していく
- 組織的・計画的な取り組みによって、教える側に統一された共通認識をつくる

活動内容

教育課程の中にESDを明確に位置づけ、組織的な年間指導計画を作成しています。曖昧になりがちな評価基準等も細かく設定し、教員側の認識を統一。実践後のデータも校内のみでなく広報紙や交流会等を通してPTA・保護者と共有しています。

校内体制づくりで大切なこと

1. 校長がESDで学校づくりをするという覚悟を決めること
2. 教育課程にESDを明確に位置づけること
3. 校内研究と重ね、組織的・計画的に研究を進めること
4. 学年毎の年間指導計画を作成すること（New！ESDカレンダー）
5. 単元ごとの展開表を問題解決的に作成すること
6. パソコンに年度ごと、学年ごとのフォルダを作成し、教職員間で実践データを共有すること
7. 保護者にESDを含む教育方針の説明をして理解を得ること
8. 校内の実践交流から地域の交流へ発展させ、相互交流を促進させること

学年毎の年間指導計画をつくる

第6学年 ESDカレンダー								江東区立八名川小学校				
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			ようこそ、わたしの町へ			とんぼの俳句を比べる	平和について考える					
算数												
理科			動物に食べられる植物				電気の性質とはたらき				生物と地球の環境	
社会					江戸の文化をつくりあげた人々		長く続いた戦争と人々の暮らし		私たちの生活と政治		世界の中の日本	
総合			江戸・深川の歴史を調べ、この町を語ろう			太陽がくれたエネルギーとわたしたちの暮らし				世界の平和と日本の役割		
英語												
特活										八名川まつり		
道徳			長生きばんざい	地球があぶない			古きよき心	同じ地球の子どもたち			世界が100人の村だったら	
音楽							日本の音楽を味わおう				外国の友達の教室から	
図工												
体育			病原体と体の抵抗力				喫煙・飲酒・薬物					
家庭							日常の食事と調理の基礎					

活動のポイント

「共有できる」計画を作成するために

八名川小学校で目指す問題解決型学習の過程は、「学びに火をつける」「調べる」「まとめる」「つたえ合う」という4つにカテゴライズされています。このように簡単な言葉で表すことによって教員の認識・イメージを統一し、問題解決的な指導に取り組みやすくしています。また、単元展開表をフォーマット化することで他の学校でも取り入れてもらいやすくなるように配慮しています。

学校情報

江東区立八名川小学校

学校長 ■ 手島 利夫

所在地 ■ 〒135-0007 東京都江東区新大橋3-1-15

TEL ■ 03-3631-2260 FAX ■ 03-3631-3127

E-MAIL ■ _____

柏崎市立北鯖石小学校

新潟県

 まきまさたか
 発表者：牧匡尚 教諭・教務主任

WE LOVE 北鯖石 はばたこう未来へ

ESD を中核とした教育課程の編成



北鯖石小学校では、目標とする「未来をえがく子」の育成を見据えて校内で新たな学習モデルをつくり、教育活動を実践しています。教育課程の編成にあたっては、斬新な活動を行うことよりも、学習指導要領の趣旨や教科書に準拠した通常の学習を基盤としたうえで「つながり」「かかわり」というESDの特徴を取り入れることに焦点を当てて教育活動を改善してきました。

目的

●ESD学習モデルの自校化を図る

活動内容

校内研究主題を「『学びをつなぎ未来をえがく子』を育成する教育課程の編成」とし、研究主題に迫るために「3つのつながり」の設定したESD学習モデルを設定しました。自然現象や社会事象、事象どうしの関係を「事象のつながり」、自分と事象や人とのかかわりを「主体のつながり」、そして価値観や行動、生き方について考えていく「内面のつながり」として、「3つのつながり」を意識して単元を構成しました。

ESD学習モデルの設定

1. ESDの捉え

- ・現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近な暮らしや地域と結び付けて取り組む (think globally, act locally)
- ・課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出す
- ・学校と地域の絆づくりを大切にしながら取り組む

2. 学びをつなぐ子の姿

①事象のつながり、②主体のつながり、③学びのつながりに、気付き、考え、新たな価値観をもつ。

3. 未来をえがく子

事象と事象、自分と事象、自分の学びのつながりに気付き、考えた子どもが、課題の解決につながる新たな価値観を身に付け、身の回りの仲間や生活、地域社会に働き掛け、よりよい集団、よりよい社会の形成に参画していく。



活動のポイント

主題を実現するための具体策

教師が3つの「つながり」を意識して、通常の単元のねらいから一歩踏み込んだ学習内容を設定して授業を行うことで、児童の思考を深めます。授業実践を通して、どのような手立てを講じることで教師が設定した「つながり」を児童たちが理解し行動化されていくかを研究することで、教材を扱う教師の力量も高まります。



学 校 情 報

柏崎市立北鯖石小学校

学校長 ■ 高橋 友子

所在地 ■ 〒945-0013 新潟県柏崎市 中田 1743-2

TEL ■ 0257-22-4454 FAX ■ 0257-20-1753

E-MAIL ■ kitasaba@kenet.ed.jp

多摩市立東寺方小学校

東京都

かとうあきら
 発表者：加藤明 教諭・主任教諭

校内研究にESDをとりあげる

ESD的視点でこれまでの活動を組み替える



ESDをテーマとして取り上げ、研究・実践を進めている東寺方小学校では、これまでの総合学習の時間やたてわり班活動として実施してきた活動をベースとして、新たな学習計画を作成しました。ESD的な視点から教育課程の見直し・組み替えを行い、これらの活動を継続して行っていくための校内体制づくりに取り組んでいます。

目的

- ESDの取り組みを、継続して実施できる校内体制の構築

実施内容

活動計画の実施にあたり、校内でESDカレンダーを作成しています。また、育みたい力を改めて立案し、それらに基づいた教育活動の提案・実践が行われています。

各学年の活動

- 2年生 いきものとなかよし大きくせん
- 3年生 自然観察マップをつくろう
- 4年生 エコ探検隊がいく
- 6年生 お米と私たち
- こま学級 そめものやさんになろう

活動のポイント

息の長い取り組みを実践するための課題

ESD活動を取り上げて研究する過程で、いくつかの課題も挙げられています。教職員間の共通理解を図ること、学校周辺の環境の教材化や地域の人材の活用、学年ごとの取り組みの全校への拡充、これまでの研究成果を継続して確認していくこと等、取り組んではいじめて実感を伴うことも多いようです。これらは今後、継続的なESD活動を実施していくうえで大切な視点となっていきます。



学 校 情 報

多摩市立東寺方小学校

学校長 ■ 木下 光彦

所在地 ■ 〒206-0003 東京都多摩市東寺方100

TEL ■ 042-371-4151 FAX ■ 042-337-7631

E-MAIL ■ higashiterakata@educet01.plala.or.jp



国際学院高等学校

埼玉県

なかのまさや
発表者：中野雅也 教諭

高等学校の活動



ESD を学校の恒例行事へ

国際理解教育と環境教育を中心に

ユネスコスクールへの加盟後、「国際理解教育」と「環境教育」という二本の柱をもとにした教育活動を行っています。特に国際交流が活発で授業のプログラムも数多く、生徒にとっては価値観等の異なるさまざまな国や地域の状況や文化、環境について学ぶ貴重な機会となっています。また、環境活動においても生徒会が主体となり積極的な取り組みを行っています。

目的

- ユネスコスクールとしての自覚を感じることで、ESDへの理解促進
- ESDに関する時間を「単発」ではなく「恒例行事」にしていく

活動内容

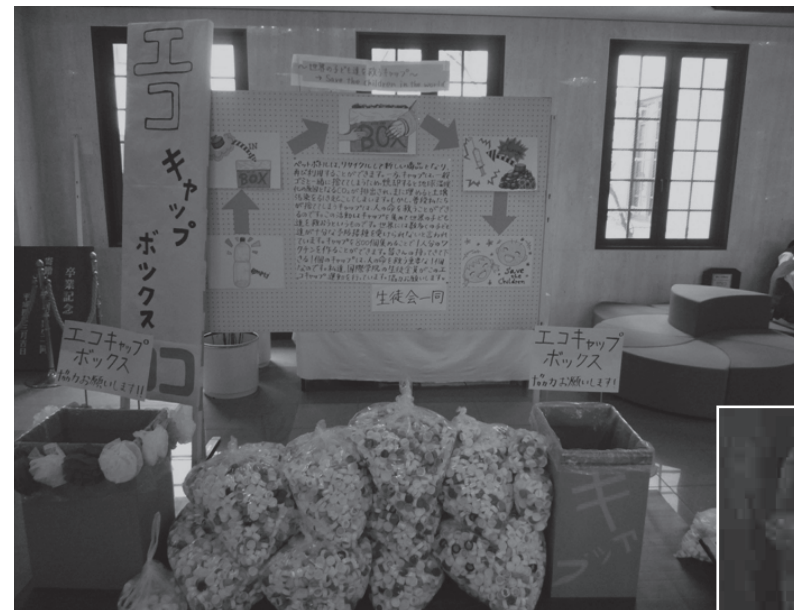
国際理解教育として、国立民族学博物館の講師を招いて講演会を実施したり、海外研修ではカナダ先住民との触れあい学習などを行いました。2011年より、ユネスコスクールESDアシストプロジェクトの助成を得て、「食を通じた異文化理解促進」を一つのテーマとして掲げ、第2学年食物調理コース生徒を対象に「トルコ料理勉強会」を行いました。今年度は、アジア地域の料理を焦点にした「タイ料理・マレーシア料理勉強会」を実施しました。



タイ、マレーシア料理勉強会

スケジュール

- 2010年度 多文化共生社会をテーマに国立民族博物館の講師による講義実施
第2学年海外研修においてカナダ先住民との触れあい学習
- 2011年度 トルコ料理勉強会
- 2012年度 タイ・マレーシア料理勉強会、世界異文化学習会



▲▲エコキャップ運動



活動のポイント

環境教育は生徒会が主役

環境教育の推進にあたっては、生徒会が活躍しています。エコキャップ運動やペットボトルアートの活動等、生徒が主体的に活動することによって全校生徒を巻き込み、地域の協力を得ながらESDの浸透を図っているのです。今年度は校内だけでなく、活動範囲を広げて地域に対しても同様のはたらきかけを行っています。

学 校 情 報

国際学院高等学校

学校長 ■ 大野 博之

所在地 ■ 〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 10474

TEL ■ 048-721-5931 FAX ■ 048-721-5903

E-MAIL ■ _____

筑波大学附属坂戸高等学校

埼玉県

いしいかつよし
発表者：石井克佳 主幹教諭

インドネシアの姉妹校との交流

「聞き書き」プロジェクトの実施

高等学校の活動



筑波大学の付属学校として、またわが国初の総合学科高等学校の研究校として、生徒のキャリア意識形成に関する教育研究活動を行ってきた坂戸高校。2000年から海外での校外学習がスタートして以来、インドネシアの学校との姉妹校提携をはじめ、米国・韓国・中国からの教職員視察受け入れや教員派遣、アジア諸国や欧米への生徒留学や生徒派遣ならびに留学受け入れ、ESD国際シンポジウムの開催等、活発な交流を行っています。

目的

- 生徒のキャリア意識を高め、コミュニケーション能力を養う
- 環境保全活動、農林業等の分野に対する興味・関心を喚起する

活動内容

坂戸高校では、2011年3月にインドネシア・ボゴール農科大学附属コルニタ高校と姉妹校提携を結び「聞き書き」による交流を進めています。日本とインドネシアとで、それぞれの学校の生徒が竹細工職人を訪問。互いの成果を発表して学びを深めました。この交流は筑波大学とトヨタの助成により実現したものです。



スケジュール

- 7月 日本国内で坂戸高校の生徒が「聞き書き」を実施
- 9月 インドネシア・コルニタ高校の生徒がインドネシア国内で「聞き書き」を実施
- 10月 コルニタ高校の生徒が筑波大学と坂戸高校を訪問、国際シンポジウムで発表
- 12月 坂戸高校の生徒がコルニタ高校を訪問、ボゴール農科大学で交流会
- 3月 コルニタ高校の生徒が坂戸高校を訪問、坂戸高校で交流会、聞き書き甲子園フォーラムに参加



「聞き書き」テキスト▶

ユネスコスクール公式ウェブサイトからPDF版をダウンロードできます。

活動のポイント

NPO 法人と連携した「聞き書き」プロジェクト

「聞き書き」とは、一対一の取材・インタビューを通して相手の知恵や技術、ものの考え方や生き方を学び、自らの言葉で記録することです。坂戸高校はNPO法人共存の森ネットワークが主催する「森の「聞き書き甲子園」」に参加しており、主に森林・林業への従事者を訪ねています。今後、オーラルヒストリーの実績が豊富な米国との交流も視野に、活動を続けています。

学校情報

筑波大学附属坂戸高等学校

学校長 ■ 加藤 衛 拓

所在地 ■ 〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田1-24-1

TEL ■ 049-281-1541 FAX ■ 049-283-8017

E-MAIL ■ gakumu@sakado-s.tsukuba.ac.jp

市原中央高等学校

千葉県

 きしまゆういち
 発表者：木嶋勇一 教諭・英語科主任

人とのふれあいを通じて「国際人」を育てる

高等学校の活動



地域から国際交流、そして持続的発展学習へ

市原中央高校では、国際交流活動を単に知識として世界を知るのではなく、生徒一人ひとりの価値観を広げるものと位置づけ、さまざまな取り組みを行っています。まずは、改めて自国の文化を理解するための地域交流活動にはじまり、生徒たちは世界各国の学生との交流、協働学習を通してコミュニケーション力やグローバルな視点を身に付けていきます。

目的

- 他者と協力して課題を解決する過程において、「ことば」としての英語を身に付ける
- 「人とのふれあい」を知り、それを活かせるバランスのとれた国際人の育成

活動内容

2012年度に行われたのは、中国からの大学生を招いたインターンシップです。中国の文化への理解を深めるとともに、「アジアの中の日本」という認識を生徒たちが持つことにつながりました。また、共通で設定された「水資源について」という学習課題をもとに、韓国、オーストラリアへの語学研修も実施しています。

JICA国際事情研修▶



各学年の取り組み

1年 韓国英語研修
・日本語、英語、韓国語を用いた交流活動

2年 オーストラリア語学研修
・「ことば」としての英語と、「人とのふれあい」の旅

3年 JICA国際事情研修
・国際社会の中における日本の役割について考える



◀オーストラリア語学研修



韓国英語研修▶

活動のポイント

「水資源について」という共通のテーマをもって語学研修へ

今年のテーマは「水資源」に設定され、生徒たちはまず、ユネスコスクールの教材である「ボルヴィック『お水の教室』」を活用して基礎知識を学びました。その後、1年生は韓国の英語研修の中で水の浄化方法について体験的に学習。2年生はオーストラリアにて水資源について学ぶプログラムを行っています。語学だけでなく、資源についての意識も高まりました。

学校情報

市原中央高等学校

学校長 ■ 真板 益夫

所在地 ■ 〒290-0215 千葉県市原市土字 1481-1

TEL ■ 0436-36-7131 FAX ■ 0436-36-7141

E-MAIL ■ i-chuo@ny.airnet.ne.jp

盛岡中央高等学校

岩手県

発表者：^{いとしいしんいち}糸井真一 教諭

体験からはじまる国際理解教育

17校の国際姉妹校との交流を通じて

高等学校の活動



盛岡中央高校では、1995年から国際理解教育に力を入れて取り組んでいます。基本的に全生徒が異文化を体験する機会を設けており、カナダでのホームステイを含めた修学旅行や、短期留学等を実施。また、15か国17校に及び国際姉妹校と連携し、同世代の生徒たちが相互に交流できる場を創出しています。このように実際に「体験して学ぶ」機会を通し、生徒の視野を広げています。

目的

- 実際に「体験する」ことを通し、異文化への理解、同世代間の相互理解を深める
- 多面的な問題把握と、国際協力の意義を理解する

活動内容

さまざまな国への短期留学、相互の授業参加に加え、姉妹校を招いた国際教育フォーラムを毎年1回開催しています。共通のテーマを事前に設定・共有したうえで盛岡に集まり、各国の生徒たちがそれぞれプレゼンテーション。交流会での議論も行われ、ひとつの課題についての多面的な視野を「体験」する場となっています。

フォーラムのテーマ

- ・食文化の違い
- ・各国教育事情
- ・子供の人権問題
- ・東日本大震災と復興
- ・環境問題→世界全体の課題として



活動のポイント

修学旅行は海外へのホームステイ

原則として生徒全員が海外での生活を体験する学習プログラムとなっているため、修学旅行にも海外でのホームステイが盛り込まれています。生徒たちはホストファミリーとの生活を通し、さまざまな体験を通して文化や歴史の違いについて学びます。出発前に不安がる生徒も中にはいるようですが、帰国までにはホストファミリーとすっかり打ち解けているようです。

学校情報

盛岡中央高等学校

学校長 ■ 富澤 正一

所在地 ■ 〒020-0122 岩手県盛岡市みたち4-26-1

TEL ■ 019-641-0458 FAX ■ 019-641-5533

E-MAIL ■ info@chuo-hs.jp

広島大学附属高等学校

広島県

たかた さとる
発表者：高田 悟 教諭・ユネスコ協同学校推進室長

科学分野を通じた国際交流

高等学校の活動



スーパー・サイエンス・ハイスクールの活動を通して

広島大学附属高校はスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の指定を受けており、10年間の活動実績があります。現在実施されているのは、科学の共同研究を通じた海外の高校との交流です。近年では、韓国とドイツの高校と連携し「ESDのための内容開発」として、生徒たちが現地へ赴いて共同の研究活動を行いました。

目的

- 科学研究を通じたコミュニケーションによる、異文化理解や国際理解の促進
- 地球的テーマに取り組むことにより、地球市民としての自覚を育てる

活動内容

韓国との共同研究では、LED電球やバイオディーゼルといった物理や化学領域のテーマに取り組みました。互いの国の文化紹介からはじまるプログラムでは、科学ゲームを通じてコミュニケーションを図った後、講義や実験等を合同で実施し、最終的にはグループでの発表まで行いました。

物理グループのプレゼンテーション



韓国での研修日程

- 1日目 学校紹介、自国紹介、自己紹介
- 2日目 合同での科学ゲーム、現地見学、ホームステイ
- 3日目 合同講義・実験、発表
- 4日目 ソウル景福宮、南大門市場見学



活動のポイント

限定された分野でのコミュニケーション効果

科学的な研究テーマを海外の学生と共同で探求するためには、共通言語としての英語と、自然科学という限定的な共通概念によるコミュニケーションが必要になります。共通の専門分野を前提としたこれらの交流は、そこから進んでお互いの背景にあるそれぞれの文化を理解しようとする意識を醸成し、有意義な国際交流へと発展します。

学校情報

広島大学附属高等学校

学校長 古賀 一博

所在地 〒734-0005 広島県広島市南区翠1-1-1

TEL 082-251-0192 FAX 082-252-0725

E-MAIL ml-unesco-fsc@ml.hiroshima-u.ac.jp